ILSI Japan 活動報告＜2018＞

バイオテクノロジー研究会

◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】

1, 2 月	1. 2018 年度　第 1 回目会議を 2 月 21 日に開催 (1) 新幹事会役割の確認、ILSI 行動規範等の確認： 年度初のため各種役割、ILSI 行動規範等の再確認を行った。 (2) ERA プロジェクト調査報告　第 37 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (3) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。 (4) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会についての準備の現況報告が行われた。開催は 4 月 25 日に決定した。 ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シークエンサーの活用に関する勉強会」開催結果報告がなされ、今後の「イルシー」誌等への投稿について議論された（今後継続検討）。 ・ ERA 報告書に長年ご尽力頂いている林先生に、これまでの ERA の歴史を整理することを目的に「日本における GM 作物の ERA の歴史」のご執筆を依頼することが提案され、可決された（今後継続検討）。 (5) その他情報共有化 「農林水産業イノベーションシンポジウム」 （3 月 20 日農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課技術安全室主催）
3, 4 月	1. 2018 年度　第 2 回目会議を 4 月 11 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告　第 38 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。 (3) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（4 月 25 日開催） フクラシア丸の内オアゾで開催。産官学一般計 59 名参加。 2016 年 ILSI ERA 勉強会の振返り、日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価の考え方（佐藤忍先生　筑波大）、隔離ほ場試験のデータトランスポータビリティの考え方と現状（大澤良先生　筑波大）、2016 年 ILSI ERA 勉強会の振り返り（雑草の特徴について）（黒川俊二先生　農研機構） ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シークエンサーの活用に関する勉強会」 開催結果報告は発表者である齋藤先生より「イルシー」誌へ投稿いただくこととなった。 ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」

	これまでの ERA の歴史を整理することを目的に執筆いただくことが林先生ご本人からも承諾された。12 月の第 41 号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備開始。
5, 6 月	1. 2018 年度　第 3 回目会議を 6 月 13 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告　第 39 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。 (3) GM 作物について： ・ 遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シークエンサーの活用に関する勉強会（2017 年 12 月 15 日開催） 開催結果報告は発表者である齋藤先生より 7 月発刊の「イルシー（ILSI Japan 機関紙）」誌へ投稿準備中。 ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（2018 年 4 月 25 日開催） 10 月発刊の「イルシー」誌に投稿準備中。 ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」12 月の第 41 号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備中。 ・ 2018 年 11 月 ERA ワークショップ準備状況共有化 開催候補日は 2018 年 11 月 7 日-8 日 登壇者、開催場所等を選定中。 ・ ゲノム編集技術の最新動向についての勉強会 講師は 2 名程度を招聘しバイオ研究会の内部勉強会という位置づけで開催する計画を策定（2018 年夏～初秋）。 ・ 2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）への講師派遣リスク評価に造詣の深い有識者を 5～6 名派遣する計画を策定（2019 年 4 月 8 日-11 日）。
7, 8 月	・ 2018 年度　第 4 回目研究会は「ゲノム編集技術の最新動向」についての勉強会と 9 月 3 日に同時開催予定。
9, 10 月	1. 2018 年度　第 4 回目会議を 9 月 3 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告　第 40 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。 (3) GM 作物について： ・「日本における GM 作物の ERA の歴史」12 月の第 41 号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備中。 ・ 2018 年 11 月 ERA ワークショップ準備状況共有化 開催日は 2018 年 11 月 7 日～8 日 (4) ゲノム編集技術の最新動向についての勉強会 バイオ研究会の内部勉強会の位置づけで開催（参加者 26 名）。 講師：農研機構生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域　田部井豊先生 2. 2018 年度　第 5 回目会議を 10 月 4 日に開催

	(1)　ERA プロジェクト調査報告　第 41 号の勉強会： ・　10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2)　GM 微生物食品について： ・　来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催計画について議論した。 (3)　GM 作物について： ・「日本における GM 作物の ERA の歴史」 ご執筆者：林先生による報告会を開催することが決定された（来春）。 ・　2018 年 11 月 ERA ワークショップ準備最終状況共有化 ・　2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）への講師派遣 リスク評価に造詣の深い有識者を5～6名派遣し、報告していただく計画を策定（2019 年 4 月 1 日～4 日）。 ・「遺伝子組換え作物の生物多様性影響の競合における優位性に関する考察」が育種学研究に早期掲載された。 (4) ISOTC34/SC16 総会ワークショップ開催について ・2010 年の The 2nd plenary meeting of ISOTC34/SC16 Horizontal methods for molecular biomarkers analysis 国際会議ポストワークショップ「GMO 検知技術の国際動向」の開催経緯を、㈱ファスマック布藤氏が説明。 ・2019 年に日本開催が予定されている ISO TC34/SC16 総会にあわせて当研究会がワークショップを開催することを検討。 (5) FY2019 活動計画の策定 ・上記 (2) および (4) 記載のワークショップを含め、8 件の活動計画について議論、策定を行った。(① ISOTC34/SC16 総会ワークショップ ② ERA ワークショップ ③ ゲノム編集ワークショップ　④ 高度に精製された添加物・食品ワークショップ　⑤ ERA 報告事業　⑥ 内部勉強会　⑦ 生物多様性影響評価/に関する論文投稿　⑧ ISBR2019 演者派遣）
11, 12 月	1.　2018 年 11 月 7 日（水）「遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ」をベルサール八重洲で開催。 ・産官学、計 73 名が参加。 ・Dr. Andrew Roberts（ILSI RF, US）、Dr. Adinda De Schrijver （Scientific expert for The Belgian competent authority）、Dr. Facundo Vesprini（Risk assessor Biotech Directorate Argentine MOAg）、Dr. Shuichi Nakai（Bayer crop science）が、大澤良先生（筑波大）、黒川俊二先生（NARO）および後藤秀俊氏（ILSI Japan）より発表。それぞれの知見の紹介、ならびに当研究会が論文投稿したデータトランスポータビリティに関する発表を行った。 ・“隔離ほ場試験が適切な方法かつ十分な規模で行われている場合、試験結果は導入遺伝子の知見にかかわらずデータトランスポータビリティがある”という点について一定の合意が得られた。 2.　2018 年度　第 6 回目会議を 12 月 7 日に開催 (1)　ERA プロジェクト調査報告　第 42 号の勉強会：

	・10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2)　GM 微生物食品について： ・来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」WS 開催 準備状況について共有化。 ・「高度精製飼料添加物の届出制度」新制度について情報提供 (3)　GM 作物について： ・2018 年 11 月 ERA ワークショップ（1 に前述）共有化 ・「日本における GM 作物の ERA の歴史」 年内に執筆作業はほぼ完了。林先生による報告会は来春 GW 明け頃に予定。 ・2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）準備状況報告。 (4)　2018 年 11 月 12 日開催、部会長会議について ・部会長より参加報告がなされた。 (5)　そのほか　TC34/SC16 国内対策委員会について ・橋本名誉部会長が TC34/SC16 国内対策委員会 GMO 分科会の委員となることが決定された。